

第2回 守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時 令和5年7月4日（火） 午後2時00分～
場所 守口市役所 教育委員会会議室
出席者 委員長 森田 大輔 守口市教育委員会事務局教育監
副委員長 東 朝美 守口市立八雲小学校 校長
委員 水野 敦夫 守口市教育委員会事務局教育部学校教育課長
委員 佐々木 幸子 守口市教育センター長
委員 寺浦 康二 守口市立庭窪小学校 教頭
委員 横山 淳 保護者
委員 杉本 由美子 保護者

○事務局 それでは定刻になりましたので、ただいまより令和5年度第2回守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催させていただきます。

では、ここから委員長に進行をお譲りいたします。委員長よろしくお願ひいたします。

○委員長 はい、それでは皆さん、こんにちは。

本日も大変お忙しい中、御参集いただきまして誠にありがとうございます。

私たち選定委員会の任務は来年度、小学校及び義務教育学校前期課程の児童が使用する教科書の採択を適正かつ公平に行えるよう、守口市教育委員会の諮問に基づき綿密な調査研究及び検討を行い、答申を行うことにございます。つきましては、机上にございます調査研究資料を基に審議を行い、御意見を頂戴できればと考えておりますので、よろしくお願ひいたします。資料の中身は、任命されました調査員が全ての見本本について府の選定資料等を参考しながら調査研究し、まとめたものでございます。私たちはこの調査研究資料を基に教育委員会の諮問事項に沿いながら検討し、答申を出さなければなりませんので、よろしくお願ひいたします。

さて、本日の会議の進め方についてございますが、まず最初に事務局よりこれまでの教科書採択に係る経緯等を御報告いただき、皆様に御確認いただくとともに御意見等ございましたら出していただきたいと思ひます。その後、審議に入っていきたいと思ひます。審議の方法につきましては、後ほど御提案させていただきます。

それでは事務局説明をお願ひいたします。

○事務局 失礼いたします。

それではこれまでの経緯及び留意点等について御説明申し上げます。これまでの経緯についてですけれども、まず確認でございますが、令和5年5月15日に第1回選定委員会を開催し、委員の任命、委嘱及び委員長、副委員長の選定を行いました。また教育委員会から選定委員会への諮問が行われております。

資料の5点目、諮問事項の写しを御覧ください。学習指導要領に示す目標、内容、下記の指定及び本市生徒の実態や地域性等も十分に考慮。令和6年度、守口市立小学校及び義務教育学校前期課程において使用するにふさわしい教科用図書に関する意見について、守口の教科書採択における基本的な4つの視点を踏まえ、求めるものでございました。

また、その後の選定委員会では、先ほど委員長からもありました選定委員会の任務の確認、調査員の種目ごとの人数の決定、調査項目の検討等について御審議をいただきました。

それらを受けまして、事務局にて説明資料等を作成し、調査員に配布することで内容の共有を十分図

った上で、種目ごとに調査研究を進めさせていただきました。その中で、守口市の基本的な4つの視点で調査研究をしていただくことを伝えるとともに、調査に当たっての留意事項1「全ての教科書についての調査研究に基づく資料を作成すること」。2「綿密かつ公正な調査研究による適切な資料を作成すること」。3「誤字脱字、不適切な表現に対する配慮を行うこと」など、約1か月間の中で種目ごとに複数回の会合を持ち、慎重に検討を重ねていただいた上で最終の調査研究のまとめが行われ、調査報告書が提出されております。

また小学校等では、6月3日から6月30日の間、教科用図書の移動展示を行いました。その際、学校にも意見の提出ができる旨、通知し報告を受けております。同様に、守口市教育研究会にも意見の提出ができる旨、通知しております。加えまして、守口市教科書センターにおきましても6月14日から7月14日までの間、教科書の展示会を開催し市民の方々にも教科書を御覧いただいているところです。経緯としましては、おおむね以上でございます。

次に、本日お配りいたしました資料についてです。まず資料3点目の「令和6年度使用教科用図書小学校調査報告書（写し）」を御覧ください。調査報告書の1から7は、各種目に共通の観点です。それぞれの項目で全ての教科書を調査研究し、特徴を調査事項として記入しております。

それから次に「令和6年度使用教科用図書小学校意見書」を御覧ください。こちらは学校への巡回展示において、教職員の意見をまとめたものでございます。また本日は、見本本を委員の皆様分用意しておりますので諮問事項にございます「守口の教科書採択における基本的な4つの視点」を踏まえ、報告書に照らして御覧の上、御検討のほどよろしくお願いいたします。

事務局からの経緯の報告及び資料の説明につきましては、以上でございます。

○委員長 はい、そして事務局からの説明が終わりました。今ありました説明に関して御質問等ございますでしょうか。

それでは、ただいまの事務局の説明で大体的様子をお分かりいただけたかと思えます。そこで答申書を作成するに当たり、どのような検討をここで加えるかということですが、この選定委員会での議論について何か御意見等ございますでしょうか。

○副委員長 委員長に一任します。

○委員長 「委員長一任」のお声いただきましたので、それでは私から一つ提案をさせていただきます。

先ほど申し上げましたように各種目全者分の資料が並列の状態です。確かに綿密な調査研究資料ですので、公正かつ適正な採択に資するものと言えます。ただし、このまま教育委員会に渡すわけにはいきませんので、前回までの採択に用いたものと同様の手法としまして、教育委員会の諮問内容に照らしながら、これらの教科書を3つに分類してはどうかと考えております。具体的に申しますと、守口の児童が使用するに「最もふさわしいと思われる教科書」。「よりふさわしいと思われるもの」、そして最後に「ふさわしいと思われるもの」ということで、今提出されておりますこの調査書等の意見を踏まえながら、3段階に分け、その結果を一覧表にして教育委員会に答申するという方法をとりたいと思いたすがいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

ありがとうございます。

それでは、事務局で特筆事項を記入する様式を作成しておりますので配付させていただきます。しばらくお待ちください。

それでは、事務局より今お配りいただいたものの説明をお願いします。

○事務局 はい、ただいま配付いたしました「令和6年度使用教科用図書の特筆事項」について各委員の皆様におかれましては、ぜひ実際に教科書を手にとって御覧にいただきながら、机上の調査報告書（写し）を基に、「特によい、優れている点」についてございましたら、この用紙に御記入をいただけ

ればと考えております。また、選定一覧表、後ろにクリップどめで「記録用」ということで合わせて配付しております。なお、これらの用紙につきましては、会議終了後に回収させていただきます。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。ただいま説明、御質問等よろしいでしょうか。

ちょっと一点確認なんですけど、この特筆事項ですか。こちらはもう本当にメモ程度ということでしょうか。

○事務局 はい、メモとしてお使いいただければと。

○委員長 ですので、教科書を確認いただいた上で、御意見ある場合は、こちらにメモをとっていただいて。ぜひ御発言による御意見としていただけたらと思いますので、お願いいたします。

それと、こちらを見ていただけたらと思うんですが、先ほど申しました3段階に分かれております。我々で決定してしまうわけではございませんので、教育委員会定例会のほうでしっかり議論いただくように、できるだけ複数の発行者の教科書を例えば、「最もふさわしいもの」のところにはできるだけ2者以上のものを入れていった上で、最終教育委員会で議論いただけたらと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは選定作業の日程について、事務局から案はありますでしょうか。

○事務局 では、選定委員会日程を提案させていただきます。

選定委員会は本日と、それから7日金曜日の2日間、12日水曜日を予備日としております。

以上でございます。

○委員長 はい、日程について事務局案が出されましたが、本日と7日金曜日の2日間、そして12日水曜日を予備日とするということでしょうか。

(はいという声あり)

それでは選定作業に入りますが、改めて教科書を閲覧する時間を取らせていただきます。その際には調査員からの報告書(写し)を御活用いただきながら御確認、閲覧ください。その後、教科書について御意見をいただき、分類し、答申案を作成させていただきたいと考えております。

それでは、まず国語からです。既に国語の教科書は配付されておりますが、皆様に閲覧いただく前に、簡単に事務局から各教科書の調査研究内容の説明を受けることにさせていただきます。

事務局お願いします。

国語

○事務局 ではまず「東京書籍」でございます。全学年で、言葉の力を育むことを目標としており、言語活動が充実した内容になっているや、学習の流れやノートのまとめ方、原稿用紙の使い方等、児童の学び方をどう進めるのかが示されているという意見が出ております。

それから「教育出版」ですけれども、AI、漫画の表現、顔文字、絵文字など新しい要素を積極的に取り入れ、児童の日常生活ともつながる教材の工夫がされている、という意見が出ております。

それから「光村図書」ですけれども、学んだ文学的文章の関連作品が巻末にあり、読書活動の推奨や読書の充実につなげることができるや、学年に応じた題材の調べ学習が取り上げられており、文章を書く教材が多い、というような御意見をいただいております。

なお、分量についての客観的なデータについては、府の選定資料の国語の16ページに、ページ数であるとか、各領域に関するページがどれだけあるか、というようなデータは載っておりますので、また後ほど御覧ください。

以上でございます。

○委員長 はい、それではただいまより10分程度、教科書を見ていただく時間をお取りいたします

ので、よろしくお願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは10分が過ぎましたので、ここから御意見をいただきたいと思います。

そしたら発行社等、順番に聞くことはいたしませんので、できる限り各教科書のよいところ等、また御意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 光村なんですけど、ちょっと全学年を見てみますと、ぱっと見たときに一番最初にこの国語の学びを見渡そうということで、今回は単元、系統的に今までどんなことをしてきたのかと。それで、これからどんなことを学ぶのか、というのが一番最初にあるので、すごく各学年まずは1年間の見通しが立てやすいことになっているのかなというふうに感じました。

○委員長 はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 同じく光村から、説明にもありましたが、書く教材が非常にしっかりしているというところは評価できるかなと思います。やっぱり表現力の育成というところは、子どもたちにつけたい力でもありますし。それと同時に、文学教材がこの府の資料によると、数は他社に比べて1から6年まで少なくともはあるんですけど、その分、じっくり取り組む作品数としては逆によいのかなというふうに思いました。そのあたりで読んで、しっかり考える時間など活動に十分時間をかけたりするのかなというふうに思っています。

○委員長 はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍になるんですけど、この府の選定資料の中で国語の16ページのところで、様々な資料のある中で、やっぱり二次元コードの取り扱いがすごく、2者に比べ大分多いのかな、各学年で。さらに、その上の図書館情報機器もやはり他社と比べて多くなっているのが見えるんで、やっぱりうちも学校図書館の利活用というのはかなり押しているところがありますので、そういった面では東書のこの部分はすごくいいなというふうに感じました。

○委員長 はい、ありがとうございます。他に御意見いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 光村ですけど、学びの工夫のところをちょっと重点的に、時間が少ないからやってみたんですけど。4年の上巻の72、76なんですけど「戦時中のものが必要な資料」というのがあって、ここも二次元コードで行くと、当時の写真が載ってまして配給券や防空ずきんですか、そういうのを子供たちがかぶっているのがあって戦争を学習するにはいいかなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 教育出版のほうは、調査事項のほうにも書いてくださってましたが、新しい要素を取り入れて、日常生活のつながりを感じやすいというところは今の子どもたちに向いているのかなというふうに思っています。

それと東京書籍ですが、デジタルノートの作り方、これ今ちょうど子どもたちが協働的な学習ということで進めようと思ってるようなことが、このように教科書の中で図式化されているのは、非常に好感が持てるなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 はい、光村図書についてです。自学、自習や読書活動につながる。特に読書について、子ども

もたちがいろいろ本を読みたいなと思うような取り扱い多数があるので、よいなと感じました。

○委員長 ありがとうございます。

そしたら国語ですが、御意見いただいた中から行きますと、一番多く御意見いただいた光村図書が「最もふさわしいもの」。続いて意見が多かったのが東京書籍。そして最後、教育出版ということになると思いますが、先ほど申しましたように複数者で教育委員会で御議論いただきたいので、「最もふさわしい」に光村図書と東京書籍の2者を入れさせていただいて、そして、次点の「よりふさわしいもの」のところに教育出版ということで、まとめさせていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

それでは、以上で国語のほう意見としてまとめさせていただきます。

続いて、書写ですね。そしたら書写の説明ですね。事務局からお願いいたします。

書写

○事務局 書写につきましては、まず「東京書籍」ですけれども、学びの過程で必要なポイントが書写の鍵として示されている。それから、デジタルコンテンツで学習のヒントが確認できる、このような御意見をいただいております。

「教育出版」につきましては、学習の姿勢や、筆記具の持ち方が学年に応じて掲載されているや、動画、ワークシート、資料が二次元コードで活用しやすいなどの意見が出ております。

「光村図書」につきましては、ほぼ全単元に二次元コードが記載されており、タブレット等で自分の学習内容を確認できるや、横書き、ローマ字の学習や外国語を書く活動も単元に入っているなどの意見が出ております。

なお、分量データにつきましては書写の8から9ページに記載されております。

以上でございます。

○委員長 はい。それでは事務局の説明が終わりましたので、先ほどと同様、調査報告書と教科書を照らし合わせながら、また10分程度お時間を取りたいと思いますので、教科書のほう御確認お願いします。

(教科書閲覧)

はい、そしたら10分たちましたので、ここから各教科書について御意見をいただきたいと思います。それではまた、どの発行者からでも結構ですので、御意見ございましたらお願いいたします。

はい、お願いいたします。

○委員 光村図書ですけれども、教材ごとに目標がはっきり分かりやすく書かれているので、子どもが目標を持って学習を進められやすいなと思いました。

○委員長 はい。ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

お願いします。

○委員 この選定資料の中の書写の8ページで、コンテンツのところに載ってあるんですけど、光村図書がすごく二次元コードが多いのと。東書さんも多くて、ちょっとすみません、シミュレーションというのが見つけられなかったんですけども、唯一、東書さんだけシミュレーションというのが、4、5、6年生に含まれているところも評価できるんじゃないかなと思っています。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

これ、確かに書写なんかは先ほども御意見いただきましたけども、QRコードで動画を見るということは、家で書くときなんかにもすごく子どもとしては学びやすい工夫かなというのは確かに感じますね。

はい、お願いします。

○委員 今の同じく二次元コードのところなんですけど、おっしゃったように家庭学習にもというの
はもちろんのこと、教室の中でも今までだったら先生の見本を見て、みんなでタイミングを合わせてで
しかできなかったものを手元で自分の好きなときにできる。自分のペースでできるというのはやっぱり
非常にこれから必要だなと思いました。

あと教育出版のほうの調査事項にも書いてくださっているんですけど、面白いなと思ったのは目的に
あった書く速さという単元がありまして。そんなことあんまり考えたこともなかったの、そういう本
当に日常生活の実態に即した、こういう視点でも教えることができるのかなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員 東京書籍さんですが、今の二次元コードですが、動画の中でアニメが使われてたので、小さ
い子、低学年の子たちにはいいかなと。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○委員 同じく光村さんですけど。前もそうだったと思うんですけど、表紙が1年から6年までスト
ーリーになっている。6年生は卒業式の猫の絵やし。何か子供たちに伝える。

○委員長 ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

○委員 東京書籍さんの、いろんな形をなぞれるのがいいのかなと思って。発達の子とかで、やっぱ
り字を書くのが苦手な子とかいてるので、いろんな形を書けるのがいいかなと。

○委員長 ああ、なるほど。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 光村さんですが、調査員の資料の中で人権の取り扱いの中で、やはり左利きの子というのは
どの教科書会社でも、1年生のときには取り上げられてるんですけど、習字道具の左利きの配置がされ
たり、3年生のもので。そういうふうに1年生だけじゃなくて、ほかの学年でも上の学年のほうでも、
そういった配慮がされているのが光村さんかなというの思います。

○委員長 今いただいている御意見を聞きますと「最も」のところは光村かなと。今、御意見の数か
らいくと。その後、東京書籍と教育出版のところがどちらも同じぐらいの御意見をいただいているん
ですが、東京書籍、教育出版、この2者あたりで何か御意見いただけたらと思うのですが、いかがでし
ょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍のほうの1年生の40ページに調査員の報告にもありましたが、似ている漢字をこ
うやって並べて、似ている文字を並べて指導されている。それがいろんな学年で繰り返しこういった学
習が行うことができるということで、子供たちの発達段階に合わせて、繰り返し学ぶことができるな
と思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。他に東京書籍または教育出版に関わって何か御意見、い
かがでしょうか。

○委員 教育出版の6年生の調査報告書の6年42ページのところに外国籍の名前が英語の寄せ書き
を掲載しているというのを書いていただいている。寄せ書きを見たんですけども、確かに英語で書いて
いるんです。ここに配慮したというのは、いいかなと。

○委員長 はい、ありがとうございます。はい、お願いいたします。

○委員 東京書籍さん、さっきもちょっと言いましたけどキャラクターが結構、低学年なんかふん
だんに盛り込まれていて。この調査員の5「学び方工夫」の最初の項目ですね。キャラクターの動きで直
感的に理解しやすい。1年の8ページであったりとか。確かに子どもたちが直感的に感覚がつかみやす
いのかなという感じました。

○委員長 ありがとうございます。

御意見ありがとうございました。前半の御意見からいくと「最もふさわしい」ところに光村図書、まず1社と。今御意見を聞かせていただく中では、もう1つ「最もふさわしい」ところには東京書籍のほうを入れておくといいのかなというふうに思うのですが、いかがでしょうか。教育出版と比べてですね、よろしいでしょうか。

はい、そしたら確認ですが、書写については「最もふさわしいもの」として、光村図書と東京書籍。そして、「よりふさわしいもの」として教育出版ということで意見をまとめさせていただくことでよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

はい、ありがとうございます。

それでは、続いて社会科ですね。説明のほうさせていただきますので、よろしくをお願いします。

社会

○事務局 では社会についてです。まず「東京書籍」でございます。各単元に「つかむ・調べる」というコーナーがあり「つかむ」の課題は、話し合い活動につなげられるテーマが設定されているという御意見をいただいております。

続いて「教育出版」ですけれども、1時間ごとの問いが書かれていて、キーワードが明記されているので学習が焦点化されやすい。また、戦時中や戦後の資料、それから明治時代の写真もカラー技術で再生されているので興味深い、というような御意見をいただいております。

それから「日本文教出版」ですけれども、タブレットを使用した学習の深め合い方があり、言語活動に活用できるのがよい、というような意見をいただいております。

なお、府の選定資料ですけれども、客観データのほうは社会の20、21ページに記載されておりますので、御覧ください。

以上です。

○委員長 はい、それでは説明は終わりましたので、また今から10分間取りますので教科書のほう、確認お願いいたします。

(教科書閲覧)

はい、それでは10分たちましたので、ここから各教科書の御意見を伺いたいと思います。それでは御意見のほう、いかがでしょうか。

はい。お願いします。

○委員 教育出版ですが、調査員の中にもあるのですが、3番と4番の中でキーワードが明記されていて学びやすいというのがある。こういうことがぱっと目につくことが大体のページにあるので、振り返りしたときに目につきやすいなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 同じく教育出版ですけれども、単元の中で1時間ずつの問いが具体的で、そこから調べるというふうに、学習がつながって、どんどん問題を進めることができるというのがいいなと思いました。

最後のまとめ方の対応で、二次元コードで基本をまとめるシートも出てくる仕組みも見られました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍ですが、学び方の工夫ということで、「つかむ・調べる・まとめる」というのが各単元で示されています。そのまま授業とか自分の自主学習にも使える展開だなと思いました。なので、このガイドどおりに進めることで、よく勉強が分かりそうだなと思えます。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 教育出版についてです。情報量が多過ぎずシンプルで、学習に対してポイント等が絞りがやすいのかなど。授業中においても、自主学習においても、子供たちが何を学んでいるかというのが分かりやすいかなと思いました。

逆に言うと、東京書籍につきましては情報量が教育出版と比較したら多いので自主的に学びを深めたいとか、学ぶ意欲のある児童にとってはどんどん学びを進めたり深めたりすることができるのかなというふうにも感じました。

○委員長 なるほど、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍ですが、調査員の資料にもありました、5年と6年は上下に分かれていて、6年生というのが歴史と政治国際編と分かれてあるので、ここがすごく取り扱いが先生もポイントを絞りがやすくいいかなと考えます。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 日文です。タブレットでは、深め合いの仕方が教科書に、5年生に載っているということで言語活動というところにやっぱり重点を置きたいなと思います。守口市の基本的な姿勢として、非常に評価できるかなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 日文ですけど、3年生の8ページのところからですが「私たちの住んでるところを調べよう」というところで、姫路市を題材にしてどうやって調べていくかということをやっているのです、このことは多分地元について、より知ることになるのでいいかなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はいどうぞ。

○委員 もう1つ。東京書籍ですけども、東京書籍さんの4年生が、全部見れてないですけど。表3のところのデジタルコンテンツのQRを開けると、これね。音声になってて音声の字幕も出る。字幕がついてるということは耳が聞こえない子供。音声と動画やったんですけど、これ字幕があるからほかはちょっと見れてないので、これだけちょっと分からんけどいいかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 教育出版さんですが、ちょっと全部見れたわけじゃないですが、120ページに「守口大根」というのが載ってあるので、守口のことが載ってあるのでいいかなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 また教育出版なんですけれども、冒頭部分の社会科の学習を広げるということで、3年生の一番初めにはインターネットとかタブレットで学習する場面も出ておりますので。今、iPadを使って学習も進めておりますので、すごく使いやすいかなと思いました。

○委員長 ああ、なるほど。はい、ありがとうございます。

そしたら、これまでをまとめますと、今お聞きしている中では「最もふさわしい」が東京書籍と教育出版の2社。で、次点の「よりふさわしいもの」が日本文教出版ぐらいでまとめられるかなと思うのですが、ほか、特に追加の御意見等ないでしょうか。

それでは今申しましたように、「最もふさわしいもの」が東京書籍、教育出版の2社。そして「よりふさわしいもの」を日本文教出版ということで、意見をまとめさせていただいてよろしいでしょうか。
(異議なしという声あり)

はい。ありがとうございます。

それでは、地図まで行ってからちょっと少し休憩を挟みたいと思いますので、それでは地図2社ですね。事務局、説明をお願いします。

地図

○事務局 失礼いたします。地図のほうですけれども、まず「東京書籍」です。QRコードを読み読み込むことで、デジタルコンテンツの活用が可能であるとか、3年生の学習のページを巻頭にたっぷりつけている、というような意見をいただいております。

それから「帝国書院」ですけれども、こちらもQRコードを読み込むことで、デジタルコンテンツの活用が可能であるというようなこと。3年生の学習のページをたっぷりつけている。それから原爆投下の被害状況の掲載もあって平和学習にも活用できる、というような御意見もいただいております。

ちなみに分量のほうは、地図の8ページに記載されております。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。それでは10分ほどお時間を取りますので、地図帳の確認をお願いいたします。

(教科書閲覧)

そしたら10分たちしましたので、ここから、今回は2社ですね。各地図帳の御意見をいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 帝国書院ですが、特記事項7番、守口市の学習。地図に現地の記載があって守口がクローズアップされているのが見えるのがいいなと思いました。

○委員長 はい。ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

○委員 続けて、すみません。同じく帝国ですが、府の資料の中でも書いてありますが大阪府の取り扱いが東書さん、ゼロに対して、帝国さんが2と。あと日本地域図という地方の地図もちょっと倍ぐらいあるので、帝国のほうのそういう地域によりクローズアップされているかなという印象を受けます。

○委員長 ありがとうございます。他にいかがでしょうか。

はい。お願いします。

○委員 僕、地図を見るのが昔から好きで、個人のフィーリングになるんですけど、帝国さんのほうが色が若干配色が薄いです。薄かったらいろんな情報が文字とかも目に入ってきやすい点もございますので、配色、情報としての文字が入ってきやすいということから、私は帝国のほうが子供たちにもしかしたら見やすいのかなと思って。はい。帝国さんのほうが見やすいと感じました。

○委員長 なるほど。今回これ2社ですので、ちょっと比べていただいただけじゃなく、それぞれのよさなんかをこの場でいただいておりますと、教育委員会での議論にも、今回の意見ということでまた議論の参考にしていただけますので本当に何か感じていただいたことを御意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 帝国の最後のところに手話が載っているの、調査員のほうにも書いてます。2番の地域の取り扱いのところで、手話を表わす、届けるコーナーに人権的配慮が見られるということでこちらがあるのはいいなと思いました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍は、調査員さんの資料の6番にもいろんな動物たちのこととか、世界の料理とか、そういう何か子供が身近に感じられるところから世界の様子を知れるとか、興味を持てるというような、そういう配慮があるのかなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

お願いします。

○委員 帝国書院さんですけれども、先ほどもありましたが一番初めのところでのこの地図帳の見方とか、地図への興味・関心が湧くように非常に多くのページを割いて自分で学習が進められるような下地づくりをされているかなということと。

あと1ページ、1ページに「地図マスターへの道」ということで、いろいろな視点で地図を楽しめる、そこから学べるような工夫をされているなと思いました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。他によろしいでしょうか。

それでしたら、先ほど申しましたように地図帳については2社ですので、今いただきましたまた御意見等も含めて、どちらも「最もふさわしいもの」として意見のほう、まとめさせていただきたいと思います。よろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

はい。ありがとうございます。そしたら先ほど言いましたように、ちょっとここで一度休憩を取らせていただきたいと思いますと思うんですが、次は35分再開でよろしいでしょうか。

はい。すみません。そしたら休憩に移らせていただきます。

(休憩)

(再開)

○委員長 そしたら再開をさせていただきます。

それでは続いては算数ですね。全部で6社。

算数

○事務局 では失礼いたします。では「東京書籍」からでございます。補充の問題、面白問題と算数に興味を持つような話題が紹介されている、というような意見をいただいております。

それから「大日本図書」ですけれども、算数の大切な考え方として、いつも使う考え方や問題ごとに使い分ける考え方が紹介されており、場面に応じて活用することができる、というような意見をいただいております。

それから「学校図書」ですけれども、3年生以上で回答つきの補充問題が設定されており、自学自習に活用できる、という意見が出ております。

それから「教育出版」ですけれども、二次元コード「学びリンク」を読み取ることで、コンパスの使い方等作画動画を見ることができたり、ワークシートをダウンロードできたりする、というような御意見がありました。

「啓林館」についてですけれども、プログラミングに興味を持たせ、取り組めるような工夫がされている、というような意見をいただいております。

それから「日本文教出版」ですけれども、算数マイトライなど児童の実態に応じて柔軟に取り扱うことのできる問題が設定されている、というような意見をいただいております。

なお、府の選定資料につきましては算数の27ページに客観データの記載がございますので、合わせて御覧ください。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。

そしたらここから算数、理科。結構発行社が多いので、ちょっと見ていただく時間を15分程度取らせていただいた上で、御意見いただきたいと思いますのでお願いいたします。

(教科書閲覧)

それでは、よろしいでしょうか。そしたら、ここからは御意見をお伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 教科書の大きさって、これは今どっちがはやりものですか。はやりものというか、これは。この差って結構あるじゃないですか。

○委員 ランドセルには両方入りますもんね。

○委員長 全体的にはどっちが。

○委員 小さいほうがスタンダードかなとは。

○委員 小さいほうがスタンダードになるのかな。

○委員長 ほとんど多くの。

○委員 B5。

○委員長 そうか。

○委員 社会、理科は少し大判の分ですね。書写とか国語については小さいほうの大きが多いですね。

○委員 これは規定はないんですか、何か文科省の。

○委員長 大きさはなかったかと思うんですけどね。以前の学校はBの文化だったんですけど、基本Aのほうに変わって。今でもまだB4とかいうのは使いはったりはするんですけどね。その時点で、教科書がまたうんと大きくなったかな。

○委員 もう1つ教えてほしいんです。算数の教科書とSDGsのつながり方って、どう理解する。どこをどうSDGsとつながってくるのか。今見てるのは府のあれなんですけどね。あれの27ページ、ちゃんと教えてもうたところなんですけど。算数の教科書でSDGsって。継続の可能な目標ですね、SDGsって、何の……。

○委員長 事務局で、何かその辺はありましたか。何か算数のSDGsのところ。

○事務局 調査事項報告書のほうですけれども、例えば、啓林館でしたら1の目標・内容の取扱いのところに「わくわくSDGs」というところが記載されていたりとか大日本図書も調査事項報告書のほうには、4年生の270ページ。

○委員長 啓林ですか。

○事務局 大日本図書ですね。4年生B、270ページ。ここがSDGs、地球温暖化につながるような折れ線グラフを使っていると。

学校図書の4年生下、156ページ。ここにもSDGsとの絡みが書いてあるというのが調査事項報告書に意見として出ております。

あと啓林館の3年生下の106から107。この辺にもSDGsのことが出ています。

○委員 府のファイルのBになってる下のところにそれが書いているんですけど。その各社全部見るのは不可能やと思って、特徴をこの参考で見ているんですけど、例えば、大日本さんのやつですと「プログラミングについて」というのが一番多いんですね、他社に比べて。かつデジタルコンテンツが一番多いんですね。ということは大日本さんてギガスクールとっているんやろうなと、教科書のつくり方がね。

逆に学校図書館さんというのがSDGsが要は一番多くて、デジタルコンテンツが一番少ないんですね。ということは、前の今までどおりの教科書のつくり方をしてはるんかなと思っていたり。

教育出版さんは、SDGsは1項目しかないのに学校図書って計38件あって、38倍違うということですね、単純に。という感じで、今後のことを考えるときにギガスクールじゃないけど、デジタル化を進めている、プログラミング論を進めていくという話がある中で、今後4年間どの教科書をつくっている話もあるのかなと思ったりしました。

○委員長 はい、お願いします。

○委員 今の大日本図書のプログラミングの学習のほうを載せられているということがおっしゃられて、それも本当にいいなと思っているのに加えて大日本図書の教科書を見てると、すごく本文の書き方や入りとか言語活動をしっかり重視している内容もあるので、ICTの部分とじっくり言語活動をしっかり育てていくというのが両面があるなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 大日本図書です。一番最初にどの学年でも算数の大切な考え方、算数的な考え方を分かりやすく解説をされています。これって、すごく大事ななと。ずっと使っていく汎用性のある学び方を学ぶという意味では本当にタイトルもダイレクトに「大事な考え方」って、分かりやすく示されているので子供たちにはすごくいいなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 学校図書さんの「考え方モンスター」というイラストつきで、ポケモンもどきのような子がいっぱいおるんですけど。これ多分、算数のこれを覚えとったら、覚えるのにむちゃくちゃ必要なこと、そもそもの。これ前と後ろについているんですけど、6年生しか見てないんですけど。前と後ろの見開きになっているやつで、多分物の考え方、算数の考え方って、多分数学に続いている話かなというのを見て、それさえマスターしとけばみたいな感じだと思いました、考え方モンスター。

○委員長 ありがとうございます。

お願いいたします。

○委員 教育出版の教科書ですけれども、「学びリンク」とか「学んだことを使おう」とかいうことで、学習したことをまた発展的に使っていくような構成になっているのがいいなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 同じく教育出版で、コンパスの使い方が動画で出ているというのが、3年生上の154ページ。調査報告のほうも出てますので、それはすごくいいなと思いました。

○委員長 はい、お願いします。

○委員 学校図書です。問題がだ一つとそのままの流れで補充問題というふうに表記があって、後ろのほうに飛ぶようになっています。自分で自由に自分のペースで取り組みたい子にとってはいいなと思います。ページの端っこにあるというよりは、ずっと上から問題を見て行って、そのままの目線で補充問題というのがぱっと飛び込んでくるので、これはとっても視覚的にも目が行きやすい。ほかの会社に比べて目が行きやすかったなと思いました。

○委員長 はい。どこでした。

○委員 学校図書。

○委員 この啓林館のQRコードを読み取ると、解説と答えが出てくるのから家で復習がしやすいかなと思って。

○委員長 ああ、なるほど。

はい、お願いします。

○委員 府の調査の中で、各巻で取り上げられる箇所数の中で、学習したことが日常生活につながる場面で取り上げられているコーナーというのが大日本図書と啓林館さんがすごく多いなという。ちよっ

と僅差ぐらいで教育出版さんと日文さんなので。大日本図書がすごく130という、こういうふうには何か日常生活につながっているというのが書いてあるのはすごくいいなと思いました。

○委員長 そしたら、今のは大日本図書と啓林館がそういう工夫が非常に多くされている。次点としては、学校図書、教育出版。

○委員 すみません、教育出版と日文になります。

○委員長 はい。なぜ算数を勉強するかとかいうようなところ、そういう工夫で。

はい、お願いします。

○委員 大日本についてです。ふくろう先生のコーナーが教科書内に幾らか散りばめられておりまして、算数で数値だけを取り扱うことが多いんですが、何か社会とかいろんなものに目も広がるので、算数が社会で生きてるなというのを感じやすいのかなというふうに感じました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 索引のところ、最後のところ。

○委員長 どこでしたっけ。

○委員 学校図書と日本文教出版さんが、索引のところで言うと、英語も書かれてあるんです。例えば、最近ではモードとかそんなのがゆくゆく中学校でそういった言葉が出てきたりすることとか。日常的にも使われたりするので、これはすごくこの2社は英語も記載されてあるのはいいなと思いました。

○委員長 はい、すみません。

○委員 教育出版のほうですが、QRコードやワークシートをダウンロードすることができますので、すごく身近にするのでしっかりと勉強していけるような仕組みになっているなと思いました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍なんですけど、これは調査事項で書いてくださってることなんですけど、学習社デジタル教科書のことには調査員が触れてくださっているんです。今ちょっと我々分からないですけど、デジタルの、そのコンテンツのところすごい工夫があるということなので、これは今後、算数の家である教科書が入ってきたときにはポイントが高いかなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

そしたら、すみません。ありがとうございます。今、御意見をまとめますと「最もふさわしい」に3社。大日本図書と学校図書と教育出版、この3社。次に「よりふさわしいもの」に啓林館と日本文教出版。最後に「ふさわしいもの」に東京書籍。御意見の量からいくと、そんな感じかないうふうに今、思っているのですが、よろしいでしょうか。

もう一度言いますと「最もふさわしい」に大日本図書、学校図書、教育出版。次点の「よりふさわしいもの」に啓林館、日本文教出版。そして最後「ふさわしいもの」として、東京書籍かなというふうに考えてるんですが、いかがでしょうか。

○委員 東京書籍は見切れてない。意見がないというか、まだ見れてないという。

○委員長 東京書籍をまだ見られ、間に合っていないというのはほか、あります。見た上でという感じですか。

デジタルコンテンツのよさなんかも言っていたので、あえて3つに分け切る必要もないので東京書籍も真ん中の「よりふさわしい」というところに入れておいて議論いただくということでもよろしいですか。

(はいという声あり)

はい、そしたら再度確認いたしますが「最もふさわしい」に大日本図書、学校図書、教育出版の3社。そして「よりふさわしいもの」に東京書籍、啓林館、日本文教出版の3社ということで、まとめさせて

いただくということでもよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

はい、ありがとうございます。

それでは最後、理科ですね。

はい、そしたら理科の説明をお願いいたします。

理科

○事務局 ではまず「東京書籍」からでございます。各単元の二次元コードからデジ活、やり方、動画等見ることができる。また、デジタル版のワークシートもついている、というような御意見をいただいております。

それから「大日本図書」ですけれども、単元同士を関連づけて流れる水の行方と水の行方を同じ単元として進めている。4年生の74から75ページに掲載されている、というような意見があります。

続いて「学校図書」ですけれども「考えよう・調べよう」の伝える・聞くのページでは、発達段階に応じた話し合いの様子が紹介されている、というような意見がありました。

続いて「教育出版」ですけれども、3年生の担当で生活科と理科の違いについて説明をしている、というような御意見もいただいております。

続いて「啓林館」ですけれども、分野ごとの物の見方が提示されており、その学年で新しく身につける考え方が分かりやすく説明されているや、二次元コードが多用されているため、興味を持ったときに自主的に調べることができる、というような意見がありました。

府の選定資料については、24ページのほうに記載をされておりますので合わせて御覧ください。

以上です。

○委員長 はい。そしたら説明が終わりました。理科についても、35分まで見てまずいただく時間として。その後、先ほどのように引き続き見ていただきながら御意見等を伺うようにしたいと思います。では、お願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 そしたら、ここから引き続き見ていただきながら、お気づきの点もその都度いただきながら進めさせていただきたいと思っておりますので、お願いいたします。御意見ある方は。

はい、お願いいたします。

○委員 東京書籍さん、やっぱりすごい何かインパクトがあるなというか、教科書の大きさといい、中身がすごく大きく。全部イラストとか写真とかで、非常に見やすい、東京書籍さんです。

○委員長 イラスト、写真等がすごく見やすく。

はい、お願いします。

○委員 大日本図書さん、府の資料によると発展的な学習で扱っている箇所数と、二次元コードの箇所数がほかと比べて断トツに多いなど。このあたり理科教育に力を入れたいというところがよく見えるなど思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 啓林館ですけれども、ほかの会社と同じ単元の5年で見えていたら、単元から防災とかほかの教科との関連とかに広がっていくような学習が展開できるかなということと。

そこからまた自由研究のまとめ方を見ている、非常に子供たちに参考になりやすい書き方でまとめられているなど思いました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。教科横断型にも使っているということですね。

はい、どうぞ。

○委員 東京書籍と、学校図書は表紙の後ろに目次がどーんと載っていて、ページを開けなくてもどんなことを勉強するかというのが一目瞭然でいいなと思います。

それと、その後ろの表紙のところに学校図書は加えてSDGsのマークが全学年散りばめられていて、その関連づけも一工夫だなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 啓林館ですが、調査員のほうの6番のところで3年生、暮らしとリンクで「日常生活で理科の関連性が分かりやすい」と書いてあるんですけど、6年生とかでも多分いろんな学年でこういう「暮らしの中に理科の要素が入っているよ」と書かれてあったり、あとこれ同じく啓林館の6年生なんですけど、STEAM教育との関連とかもここに書かれてあった。どこどころに中学校の発見で中学校とのつながりについても書かれてありますので、すごくいいなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 よろしいですか。啓林館さんですが、見開きのところ、すごいインパクトがあるなと思って。すごいメッセージ性があると思います。ちょっとの環境についてのことが1発目に来ているのと。

最後のページのところの216ページのワクビットのコーナーでは、QRを読み取って、6年生で学んだことを生かしてみようというデジタル教育がある。ほかにもあるんですけども、より大きく取り上げられている。

また、ほかの教科書も書いてますがSDGsのことを「サステナブルの未来」と書いているのが、多分この「わくわくSDGs」というQRコードを読み込んでも、ほかのよりちょっと詳しいかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 東京書籍ですけれども、デジ活とかいろいろ言うところのQRコードを読んだら、そこに出てくる字とかワークシートにペンで書き込めるようになっている。活用できるデジタルツールになっている。

○委員長 デジタルのまま書き込みをやっていけるような、なるほど。

はい、お願いします。

○委員 啓林館についてです。実験の部分で予想とか結果とかその流れが実際に子供たちが行う流れと同じように書かれておまして。また写真も余分なことが書いてなくて、結果がぱーんと分かるような写真の配置になっておりますので、子供たちが家に帰ってその日に振り返ったとき、また、2週間、3週間後に振り返ったときに、あのときのイメージがぱーんと思い出せて、しっかり学びが深まるのかなというふうに感じました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

○委員 ちょっと3つあるんですけど、東京書籍さんと大日本図書と教育出版の3つ。共通する点として後ろのところ索引のところはすごく充実しているなど。要は後ろのほうを見たら、実験器具とかの使い方とかこんな実験しましたってまとまっているので、何か散りばめられて、どこやったかなと探すよりか後ろを見たら、全部そういうふうにとまとまっているのがすごく後で、自分で調べるときとか、ぱっと見てやりやすいなど。

この教育出版さんなんかは動画のところは一まとめにしてあったりしているので、そのページを振り返って、動画でもう一度確認してみようかというのが全体的にとまとまっていたりとかしていたので、その3社は共通していいなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 教育出版です。単元の最初のほうに必ず学習のつながりということで、本当にこのちっちゃい四角囲みで、他学年の勉強とつながっているということが示されています。目に見てもコンパクト、シンプルにまとめられているからすごく見やすいです。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

○委員 教育出版さんの「学びリンク」というのは全部のやつで載ってるじゃないですか。「学びリンク」って、いいかなと思ってて。統一されてるし、何かうまいこと使えば、教育出版さんを。ばらばらにならないというか。

○委員長 他の教科と関連させながら進めていける。

○委員 そう。いいこともいつも一緒なんでね、学びリンク教育と。この教科書をあっちこっちとならへんのは、うまいこと考えてはるなと考へまして。

○委員長 ああ、なるほど。はい。

御意見たくさんいただいたので、意見としては「最もふさわしい」が東京書籍と啓林館。あと大日本図書と学校図書、教育出版はもう横並びのという感じかなというふうに思っているのですが、よろしいでしょうか。

(はいという声あり)

そしたら再度確認いたしますが、「最もふさわしい」教科書として、東京書籍、啓林館。「よりふさわしい」ところには大日本図書、学校図書、教育出版の3社。これでよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

はい、ありがとうございました。

それでは、本日予定をさせていただいた選定作業がこれで終わりましたので、本日はこれで終わりたいと思います。本当にありがとうございました。

残りの種目につきましては、次回7月7日、金曜日の午後1時から、この場所で続きをさせていただきたいと考えております。よほどのことがない限りは、次の会での最後の教科まで行けたらなと思っておりますので、また当日御協力のほうよろしく願いいたします。

それでは閉会に当たり副委員長より御挨拶をいただきます。

○副委員長 失礼します。本日は、選定作業行っていただきまして、ありがとうございました。残っている種目はまだございますけれども、また引き続き公正かつ厳正な選定が行われますよう、お力添えをいただきますようお願いいたします。本日はありがとうございました。

○委員長 ありがとうございました。

閉会 午後4時33分

第3回 守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会

日時	令和5年7月7日（金） 午後1時00分～		
場所	守口市役所 教育委員会会議室		
出席者	委員長	森田 大輔	守口市教育委員会事務局教育監
	副委員長	東 朝美	守口市立八雲小学校 校長
	委員	水野 敦夫	守口市教育委員会事務局教育部学校教育課長
	委員	佐々木 幸子	守口市教育センター長
	委員	寺浦 康二	守口市立庭窪小学校 教頭
	委員	横山 淳	保護者
	委員	杉本 由美子	保護者

○事務局 それでは、定刻になりましたので、ただいまより、令和5年度第3回守口市立義務教育諸学校教科用図書選定委員会を開催させていただきます。

では、ここからは委員長に進行をお譲りいたします。

委員長、よろしくお願いいたします。

○委員長 それでは、皆様こんにちは。本日もお忙しい中、御参集いただきましてありがとうございます。

前回の選定委員会の審議では、国語から始まり、理科までの計6種目について選定を終えたところでございます。

本日も、引き続き、他の種目についても前回と同様に「最もふさわしい」、「よりふさわしい」、「ふさわしい」の3段階に分類して作業を進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、まず「生活」からです。本日も、まず説明を受けてから審議を進めたいと思います。

それでは、事務局お願いいたします。

生活

○事務局 失礼いたします。

では、まず、東京書籍からでございます。「就学前教育から義務教育への接続を考えたスタートアップカリキュラム資料が充実しており、主体的な学びの実現に向けた工夫がある」ということで、東書の上の1ページから3ページの辺りに記載されております。

それから、大日本図書ですけれども、「気持ちマークを書かせることで振り返り活動に役立つ」というような意見が出ておりました。

続いて、学校図書ですけれども、「おもちゃ作り、おもちゃの作り方が、風、ゴム、転がす、投げるなど、バランスよく準備例も例示されており、児童の思考や活動の手助けとなる」というような意見が出ておりました。

続いて、教育出版でございます。「家族での遊びや祖父母との関わりなど、家族のつながりや大切さについて考えるよう配慮されている」というような意見がありました。

続いて、光村図書ですけれども、「主体的に学習を深める頻度となる「ひろがるせいかつてん」が上下巻の巻末にあり、学習に活用しやすい」というような意見が出ておりました。

続いて、啓林館でございます。「各単元が「わくわく」、「いきいき」、「ぐんぐん」の3段階で構成されており、学びのスパイラルを意識した指導がしやすい」というような意見が出ておりました。

それから、分量のデータについては、府の選定資料の生活20ページに記載されております。

以上でございます。

○委員長 それでは、説明が終わりましたので、今から教科書のほうを見ていただく時間を、こちらでも6社ございますので15分ほど取らせていただいた後に、前回同様、また見ていただきながらお気づきの点を言っていただくという形で進めさせていただきます。

それでは、教科書のほう御覧ください。

(教科書閲覧)

○委員長 そうしたら、ここからは引き続き見ていただきながらで結構ですので、お気づきの点と御意見等をお伺いしたいと思いますので、ございます方からお願いいたします。

○委員 啓林館ですが、府の調査にもありますように、安全について取り上げているページ数が多くて、やはり一、二年、小学生入りたての子、本当に安全というのは大事だというのが、そういうのが取り上げられているのはすごくいいかなというふうに思いました。

○委員長 ありがとうございます。

ほかございましたら、随時お願いいたします。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍は調査員の方も書いてくださっているけど、夏の暮らし、秋の暮らしということで、季節ごとの行事とか服装とか、そういうものが一目で見れるようになっていきます。子供が、こんな世の中だけど、季節を感じにくい部分がありそうですが、こうやって改めて出していただくと子供も実感を伴いやすいのかなと思います。

○委員長 ありがとうございます。

はい、お願いします。

○副委員長 啓林館ですけれども、おもちゃ作りとかの単元から、それで終わるのではなくて遊び方とかおもちゃランドをピックアップしたりするとか、あと下のほうでも2年生の、できるようになったことを紹介しようとか、学んだことを基に活動が発展していく流れが伺えるのでいいと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 光村さん。

○委員長 光村、はい。

○委員 光村さん、最後のページのところでちょっとおまけっぽい型紙のやつがついてまして、こんなやつですね。

○委員長 はいはいはい。

○委員 これは何か、春の仲間たちで季節感じるものの型紙になってまして、こんな感じ。これは子供たち喜ぶんちゃうかなって。紙がきれいですし、いいかなと思います。

我々としては、安全については啓林館さんが多くていいんですけど、光村さんのほうもいろいろ書いてもうてまして、例えば、おまけについてこの、ちょっと僕取れちゃったんですが、「ひろがるせいかつじてん」の中でもこれがあつて。

○委員長 ああ、なるほど。はい。

○委員 ここからQRで動画に飛ぶので、子供がこんな車来たら危ないよって、アニメで流れてるので、よりコンテンツが少ないのかも分からんけども動画でもフォローしてるというところがあつていいかなというふうに思いました。

プラス、啓林館さんは、この絵というか、このキャラクターですね。これが多分ね、今どきなんですよ。こういうすみっこぐらし的な感じのやつ、これがすごい小ちゃい子には優しいかなと思って。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。

○委員長 ほかいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍ですけど、資料にもあるように二次元コードが抜群に多いです。デジタルの情報が非常に多く掲載されているのが分かります。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 同じく東京書籍なんですけど、先ほど冒頭で説明もありましたけども、スタートブックということが非常に丁寧かなと。やっぱり写真も大きくて、これから起きる学校生活のすごくイメージしやすい形が非常にいいなというふうに思いました。

あと、もう一つなんですけど、ちょっと複数にまたがるんですが、上のほうの巻末に、大体くらしの便利手帳みたいなのがついている中に、コンピューターを使おうというふうに書いてあるのが東京書籍、教育出版、光村さんのこれもですね、こっちの中にもあって、あと啓林館。特にタブレットの使い方、こんな壊したりしないでねとか、忘れてしないでねという、そこまで書いてあってすごく今のICTの活用のところも注意しながらやっているなというのを感じられました。

○委員長 なるほど。

はい、お願いします。

○委員 啓林館についてです。

個人的な感想になるかもしれないんですが、絵やイラストがごちゃごちゃし過ぎず、子供たちが視覚的に入ってきやすいのかなと思いました。

また、後ろのおまけのページというかな、ありますよね。巻末のページが充実しているなど。

あと、この啓林館さんだけサイズが若干小さいんですね、他社さんに比べて。で、まあまあ大きい子やったら丁寧に扱うけど、小さい子ってまだタブレット持ってね、手も小さいし握力も弱いんで、ちょうど何か同じようなサイズで何か持ちやすいのかなというのは、何となく雰囲気として感じました。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

もし、他にないようでしたら、ちょっと今の段階でまとめさせていただきますと、「最もよい」が東京書籍、啓林館。「よりふさわしい」が光村ですね。あと3社が「ふさわしい」ぐらいになるかなと思うんですが。特に、大日本と学校図書と教育出版というのが、顕著なちょっと、よい特徴というのがあまり今お聞きしてないかなというふうに思いますが。

今の分類で特によろしいでしょうか。あ、その表紙、それどこでしたっけ。

○委員 光村。

○委員長 ああ、光村ですね。そうですね。

○委員 かわいらしい。

○委員長 そうですね。

ちょっと再度確認しますが、「最もよい」が東京書籍、啓林館。「よりふさわしい」が光村1社。残り、大日本、学校図書、教育出版を「ふさわしい」と3番目のランクというところによろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

○委員長 はい。そうしたらありがとうございます。それじゃあ、生活のほう、それで分類させていただきます。

そうしたら、続いては、音楽ですね。

そうしたら、音楽は2社になりますので、大体こう見ていただく時間10分程度取らせていただいてから、また御意見をお伺いしたいと思いますのでよろしくをお願いします。

ごめんなさい。その前に説明を。

○事務局 失礼します。

では、教出のほうからですけれども、「英語の歌が各学年配置されており、教科横断的な扱いができるのではないか」や、「振り返るマークにより、既習の楽曲との比較や歌、性質を探ることができるようになっていく」という意見が出ておりました。

それから、教育芸術社ですけれども、「学習活動が題材に沿って具体的に示されており、教員の専門性に関わらず、一定の質を保った授業を行うことができる」や、「振り返りのページが巻末についており、学んだことの一覧があってよい」というような意見が出ておりました。

なお、府の選定資料については、音楽17ページに客観データのほう載っておりますので御覧ください。

以上です。

○委員長 はい。ありがとうございます。

そうしたら、今から教科書見ていただく時間取りますのでお願いいたします。

(教科書閲覧)

そうしたら、何か御意見等ございます方から、随時お願いいたします。

はい、お願いします。

○委員 教育芸術社のほうです。やはりこの学習発表というのが、もう全学年あるというのがすごく分かりやすいなど。歌うところでは、こういうことをやっていきますよという計画立てて見ることができるので、本当に先生方の授業の展開としてはしやすいだろうなど。

加えて、この学習のまとめりごとに出てくる吹き出しのようなものが、すごく子供たちの付けた位置から、こんなことというのを明確に書かれてあるので、先生たちもそれを意識しながら音楽の授業に取り組むことがしやすいなというふうに感じました。

以上です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 この教育出版のほうで、手遊び歌が多いのがいいかなと思って。

○委員長 なるほど、なるほど。

○委員 特に、1年生はそういうリズムに乗るのが一番乗りやすいのかなど。覚えやすいし、音とか音程とか乗りやすいのかなと思って。

○委員長 なるほど。はい。ありがとうございます。

小さい子でもできるようなリズム遊び的なものがあるというね。

○委員 そうそう、すごいリズムが多くていいなと思って。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 教育芸術社です。単元ごとの題材とかが非常に具体的に活動が設定されてるなというふうに思います。

それと、このページの右下のところに学習事項がキーワードみたいな形で常に出てくるので、今この勉強の中で何を意識するのかなというのが伝わりやすいと思います。

○委員長 はい。ありがとうございます。

はい、お願いいたします。

○副委員長 教育芸術社ですけれども、巻末の振り返りのページが全学年ありまして、一年間まとめて学習を振り返ることができるようになっているのが活用しやすいなと思いました。

○委員長 なるほど。はい。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 教育芸術社ですが、一つ一つの説明等が細かく丁寧で、音楽の専科の先生じゃない先生が指導するときには、より指導しやすいのかなと感じました。

対して、教育出版さんのほうは、説明とかがそこまで多くないので、歌とか演奏とかに重きを置いた授業内容として授業を進められるのかなと感じました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

音楽のほう2社ですので、今、御意見のほうは教育芸術社の御意見たくさんいただきましたが、一応できるだけ複数で御審議いただくということから、教育芸術社と教育出版、このどちらも「最もふさわしい」というところに入れて、後日御審議いただくということでよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

○委員長 ありがとうございます。

そうしたら、続いて、図画工作に移ります。

こちらも2社となりますので、10分程度見ていただいた後、また御意見伺いたいと思います。

それでは、説明お願いします。

図画工作

○事務局 まず、開隆堂ですけれども、「作品を比較させ、違いを感じさせるとともに、双方のよさを理解する。みんな違ってみんないいという完成を育ませる工夫がある」、それから、「図工の授業を他教科との教科横断的な指導がしやすい工夫が見られる」というような意見がありました。

それから、日文、日本文教出版ですけれども、「全編通じ、見開きで教科書の使い方が冒頭に記載されている形がそろえられており、さらには図解入りで説明されているのが分かりやすい」というような意見ですとか、「鑑賞のヒントがポイントで分かりやすく、児童の感性を言葉に具現化させる工夫が見られる」というような意見がございました。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。

そうしたら、説明終わりましたので、教科書のほうを御覧ください。

(教科書閲覧)

○委員長 はい。そうしたら、ここからまた御意見お伺いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 日文さんですが、6年生の最後のページなんかでも今まで学んだことを振り返ろうということで、次の中学校につながるような仕掛けが教科書の最後にあるのがいいなというふうに思いました。

○委員長 ああ、なるほど。振り返り。はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 同じく日文です。ページの右下に気をつけよう、片づけ、振り返りと必ず載ってるんですけど、この振り返りのところの問いかけがとてもいいなと思います。こういう芸術の教科で言語活動を促すような、そういう問いになっているところがとてもいいです。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 日文さんについてです。左下にいろいろとこんなものをそろえてねというのがありますので、あまり図工が得意じゃない担任の先生であったりとか、また、子供たちもこれを見ながら、家でも、もしページ飛ばしちゃってやってない作品とかが出てきても、そのときに自宅でも何かこれをそろえて、お母さんこれ買ってって言って準備してもらえたら自分でも挑戦できるのかなというふうに思いました。

○委員長 ちょっとこう自学にもつながっていきけるような。

○委員 そうですね。つながるのかなと。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂さんですけども、各地の江戸切子みたいな伝統産業をちゃんと取材して載せてるところが、日文さんとはちょっと違うかなと。

あと、芸術から人々の幸せやふれあいを願うということで、すみません、6年の下巻。上下の下巻のところの53ページ、平和を願うというような。芸術面からそういうことを言われてるのかなと。アーティストがよく平和を願うような活動される時はバンクシーみたいなものとかね。そこにつながるかどうかは分かりませんが、というような感じを受けました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 はい。ごめんなさい。どうぞ。

○委員長 はい、お願いします。

○副委員長 では、日文ですけども、見開きで左上に必ず鑑賞のポイントや授業の目標が同じふうに書かれてるので、その時間の活動のめあてが分かりやすく、学習が進められやすい、つける力がはっきりと分かっていいなと思いました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂のほうも、今のとよく似た視点なんですけど、学びのめあてがキャラクターになっていて。それぞれ多分ほかの、もう一つの業者さんの本と視点は一緒なんですけど、キャラで親しみやすいかなと。そのまま学習の観点になっていて、子供にとったらちょっとここ読んでから勉強してみようかなという気持ちになると思います。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂なんですけど、これもどの学年にも、最後に地域とか、そういったつながりが載せてあって、最後、五、六年生のほうの下巻のほうでは、それが仕事とかでも役立っているというふうにつながっているの、本当にキャリア教育の視点でもすごくいいなというふうに感じました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

はい。それじゃあ、今御意見もう言っていただけおれば、こちら2社ですが、両者ともそれなりの特徴あるよさを今言っていただけかかなと思いますので、今の御意見を踏まえて、どちらも「最もふさわしい」ものとして整理させていただいてよろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

○委員長 はい、ありがとうございます。

それでは、続いて家庭科ですね。家庭科2冊になりますので、10分弱ほどの時間を取って見ていただきます。

その前に、それでは、事務局説明お願いいたします。

家庭

○事務局 失礼いたします。

では、まず東京書籍でございます。「実習など手順を間違えないように写真などで詳しく記載されており、主体的な学びの実現に向けた工夫がある」という意見ですとか、「イラストの人物の対話から、どうすればよいか自ら考える工夫がされている」というような意見が出ておりました。

続いて、開隆堂ですけれども、「学習内容が見開きの2ページで1セットとなっていて見やすい。また、書体、フォントの字の太さや大きさも全体的に見やすい」というような意見ですとか、「学習のめあてが明確であり、チェックがあることによって意識を高めることができる」というような意見がございました。

なお、府の選定資料については家庭科12ページに客観データのほう掲載されております。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。

そうしたら、しばらく教科書のほうを御覧いただきますようお願いします。

(教科書閲覧)

○委員長 そうしたら、ここから御意見等いただきたいと思えます。

いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂ですが、最後の巻末とかにもどんとキャリアの視点で、キャリアにつながる持続可能な未来ということで、最後にいろんな職業に対してのコメントが載ってあったり、ところどころにもそういうキャリア教育の視点でインタビューが掲載されているのがすごくいいなというふうに感じました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂さんのほうで、最後のほうで右利きと左利きの場合の包丁の切り方が載ってて、これは分かりやすいかなと思って。

○委員長 148ページですね。

○委員 そうですね。やっぱり利き手によって全然違うので。これはちょっと分かりやすいかなと。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

○委員 教育出版もあるけど。

○委員 うん。あるけど、こっち右だけやね。左利きの場合もあるけど。もうちょっと欲しいよな。こっちはこっちで、これは分かりやすいね。

○委員長 他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 開隆堂のほうです。ところどころにほかの教科との関連事項は、それが分かるようになっていてマークがついてます。例えば、体育3年、身の回りの環境とかいうことで、単元名まで載せてくれているので、この教科だけに収まらず横断的に学習できそうです。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 これだけはちょっと言っときたいんですけども。開隆堂さんの11ページと東京書籍の17ページなんですけど、ガスコンロの扱い方があって、より適切なのは東京書籍さんのほうで、不完全燃

焼を起こしてる火と地震が起こったときのことをちゃんと書いてくれてると、IHが危険なところあるんですよということをちゃんとビジュアルで同じページに書いてあるというのが。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍さんです。教科の内容以外に資料としてページの横についでる部分なんですけど、今ね、お話あったように日常生活のことや、またグローバルの視点であったりとか、また、日本の伝統のことなど様々な視点で子供の家庭科からほかのことに興味にもつながって学習が深まっていくのじゃないかなと感じました。

○委員長 なるほど。ありがとうございます。ごめんなさい。今、東京書籍ですか。

○委員 東京書籍です。はい。

○委員長 はい。

ほかいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○副委員長 開隆堂さんですけども、33ページとか75ページとか、グループで話し合っ解決をしていこうとかいう場面を想定してグループ学習とか、子供たちの協働学習につながる学びができる内容になっているかなと思いました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 すみません。ちょっと両方のことなんですけども、このページの下のところ、すごく使い方が両者とも面白いなど。東京書籍なんかはメモとか今回のポイントとかが書かれてあったり、わざわざグリーンティーで次のページに答えのお茶とかって載っててみたい。

一方で、開隆堂さんは、同じところに日本語と英語が書かれてあって豆知識があるので、調査員の資料の中にもありましたけど、豆知識があることで自学自習にすごく興味をつなげることができるというのは同感です。

○委員長 はい、ありがとうございます。

それじゃあ、御意見のほうはもういただきましたでしょうか。

それじゃあ、今回この家庭科についても、両者ともそれぞれのよさを言っていただけたかなと思いますので、いただいた意見も併せて、両者とも、また「最もふさわしい」で答申のほうに反映させていきたいと思えます。ありがとうございました。

それでは、ここでちょっと休憩を。残り3教科で結構ボリュームあるんですね。1教科ずつ。

○事務局 あります。

○委員長 それじゃあ、25分までちょっと休憩とさせていただきます、後半3教科させていただきたいと思えますのでお願いいたします。

そうしたらちょっと休憩とさせていただきます。

(休憩)

(再開)

○委員長 そうしたら、よろしいでしょうか。

それでは、保健のほうに移らせていただきます。

それでは、まず説明をお願いします。

保健

○事務局 では、東京書籍からでございます。「夢をかなえるという大きな学習の動機づけが示されており、義務教育9年間の学びの連続性が考慮されている」というような意見がありました。

続いて、大日本図書ですけれども、「図や資料に無駄がなく、見やすく分かりやすい。また、折り込みを使うことで主体的な学びの実現に向けた工夫がある」という意見が出ております。

続いて、大修館ですけれども、「各単元で課題をつかもう、話し合おう、考えよう、調べよう、まとめ、生かそう、伝えようの順に流れが示されており、課題を見つけて解決し、学習できるよう工夫されている」というような意見が出ておりました。

それから、文教社ですけれども、「翻字のメニューで課題を示し、学習活動が示され、見通しを持って課題を解決できるよう工夫されている」というような意見が出ておりました。

続いて、光文書院ですけれども、「写真・図・表などの資料が児童の発達段階を考慮して示されている」というような意見がございました。

最後に、学研教育みらいですけれども、「書き込みながら課題を解決し、学習が進められるよう工夫されている」や、「単元末の振り返る、伝える、つなぐでは、気づいたことを書き込める工夫がされており、自分自身を振り返ることができるようになっている」というような意見がございました。

なお、府の選定資料のほうは、保健21ページに客観データのほうに記載されていますので、併せて御覧ください。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、保健のほうは6社になりますので、15分ほど時間をかけてから、また御意見伺いしたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

(教科書閲覧)

はい。そうしたら、ここから御意見をいただきたいと思えます。

はい、お願いします。

○委員 学研ですが。

○委員長 学研、はい。

○委員 この単元の最初に学習の進め方というのが書かれてあって、すごく学習の方法とか進め方を教員もそうだし子供たちもつかむことができるので、非常にいいなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○副委員長 大日本図書ですけれども、見開きで、つかもうとか、調べようとか、考えようということでアクションの過程が分かりやすく解説されていて、つかもうのところはチェックしながら学習に入りやすい工夫がされてるなと思えました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 学研教育です。客観的なこのファイルのデータからも分かるように、書き込み欄が最も多い。ここに書き込むことで学習が一目で分かるので活用しやすいのかなと。また、点線で罫線も入っているので、子供も書きやすいのかなと思えました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 文教社さんの飲酒とか薬物乱用とか、皆全部あるんですけども、中の説明がより身近で分かりやすいかなと。例えば、文教社さんの五、六年生のやつなんですけど、飲酒の害と健康というところで、なぜ駄目なのかというの、だからこれがあるから駄目なんだというのと、72ページなんかやったら、もしこんなときはどうしますというような会話が先生たちとできるのかなとか思っていて、あるあるですけども、親戚の集まりのときに、おじさんたちが酒を飲まそうとしてやってきたとき、あなたはどうしますかという。こういうような実際によくある話で、田舎へ行けば行くほどこういうようなことあるんですけど。そういうときにちゃんと断り方を教えてくれるとか、いろんな具体的な例を出してるというのは子供たちにとっても分かりやすいのかなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他に。はい、お願いします。

○委員 光文書院ですけども、ところどころ4コマ漫画、6コマ漫画みたいなのがあって、単元の初めとかに。ここが何でこういうことをやってみるんか、この単元が始まるのかなというのを、この漫画のほうでつかみやすくなってるのがすごくいいなと、このように思いました。

○委員長 光文ですね。

○男性委員 光文です。

○委員長 はい。

はい、お願いします。

○委員 大修館は単元ごとに課題をつかんで話し合う、考える、調べる、まとめるという授業の流れに沿う形で項目が設定されているので、そのまま使えるなど。授業者にも使いやすいものになっていると思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 あと、大日本図書の書き込みがしやすいワークになっているというのは学研もよく似た感じで、学研と大日本図書が一番ワークと教科書とが一体になったような、そういう設計になっているなどと思います。どちらも。

○委員長 はい、ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 東京書籍なんですが、一番最初の巻頭にあるように、一緒にこうやって学んでいきましょうというところで、車いすの子がいたり、外国籍の子がいたり、やはり人権的にそういった配慮がされているなど感じました。

○委員長 はい。

はい、お願いします。

○委員 大日本図書ですが、単元の中に、「もっと知りたい」というページがあって、そこにいろんな内容が盛り込まれているんですけど、その中で前に習ったところとか、次習うところとか、本編の関連する学習に飛べるようにページが打ってあるので、あっち行ったりこっち行ったり、らせんで学ぶことができそうやなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。

今、東京書籍、大修館、文教社、光文書院が横並びなんですけど、区別化する必要もないんですけど、3段階でというところであれば、その4社ぐらいで特に御意見ないでしょうか。

○副委員長 文教社ですけども、三、四年生の前ページの保健の学習を進めるに当たってコンピューターの学習に生かそうというところと、そこから24ページに飛んで、コンピューターを使う際の気をつけることが分かりやすくなっているなど思いました。

○委員長 なるほど、なるほど。はい、ありがとうございます。

○委員 光文書院は、性についての学習のところで実際の相談窓口なんかもここに載っていて、すごく実際のだなと。それを活用したいなと思う子もいるかもしれないなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○委員 光文書院ですが、この見開きの最初のところにアスリートの方のメッセージとかが載ってあったりして、やはりアスリートの人とか有名な人がこういう保健の授業で大切なポイントというのを語っているのは、すごくこの子供たちに響くなというふうに思います。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

それでは御意見いただきましたでしょうか。よろしいですかね。

どうぞ。

○委員 東京書籍の一番巻末のところの、このマークですね。このマーク。これみんなちゃんと書いてくれているのが子供たちにね、見てほしいですね。

○委員長 なるほど、なるほど。

○委員 ほかが書いてるかどうかちょっと見れてないんですけど。

○委員長 それ東書ですね。

○委員 はい、東書です。これが結構ね、うれしいですね。

○委員 ほかもまあ。

○委員 ほか書いてるのかな。

○委員長 はい。そうしたら、御意見もうよろしいでしょうか。

はい。そうしたら、ありがとうございました。そうしたら、今いただいた御意見で整理しますと、まず、「最もふさわしい」に当たるのが大日本図書と学研みらい。次に、「よりふさわしい」ものが東京書籍と光文書院。そして、大修館と文教社が「ふさわしいもの」ですので、2社ずつで整理させていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

○委員長 はい、ありがとうございました。

それでは、保健を終わらせていただいて、続いて、英語に移らせていただきます。

そうしたら、英語の説明をお願いいたします。

英語

○事務局 失礼いたします。

では、まず東京書籍からでございます。「全てのユニットでゴールや目標が書かれており、学ぶことが明確である。なお、二次元コードで動画でも確認ができる」というようなことが意見として出ておりました。

続いて、開隆堂です。「巻末に各学年で学んだ項目のCan-Doチェック表がついており、自分の学びを確認しやすい」というような意見が出ております。

続いて、三省堂ですけれども、「Let's Talk、Let's Tryでは、ペアワークやグループワークが設定されていて、児童同士の対話的な学び合いを促すことができる」というような意見が出ておりました。

続いて、教出です。「シールやカードを使った活動が多く、書く活動より話す活動が多いので学びやすい仕組みになっている」というような意見が出ておりました。

続いて、光村図書です。「学年の初めに目標を細かく示し、自己評価ができるページやCAN-DO

リストがあり、学びの振り返りがしやすい工夫がされている」や、「好きな人物やキャラクターになったつもりでクイズを出し合う、Who am I、主体的で対話的な学びの実現に向けた工夫がされている」というような意見もございました。

最後に、啓林館でございます。「チャントのアクセントに印がついており、二次元コードで見られる動画と併せて正しい英語のリズムを学ぶことができる」というような意見もございました。

府の選定資料につきましては、英語の22ページに記載されております。

なお、この英語の教科書につきましては、府の通知で、紙の教科書を基本とするんですけども、6年度以降、英語の学習者用デジタル教科書が、英語については併せて提供する予定ですので、今回の採択についてはデジタル教科書も調査をし、考慮の1事項とすることができるというような通知がございました。

今お配りしております調査事項ですね。調査員からの分の英語のほうを見ていただきますと、市のほうですね、調査事項。ああ、そうですね。

○委員 こっちの、こういう。これ。こっちのほう。

○事務局 そっちのほうですね。

○委員 選定委員さんが見た。

○事務局 はい。

○委員 選定委員さんですね。分厚いやつですね。

○事務局 調査員ですね。そちらのほうの英語の部分で、学びの工夫、5番のところに各社のデジタル教科書についての意見が出ておりますので、その辺も参考にさせていただきたいのと、府の選定資料につきましても、英語の17ページ、18ページ、今度は府の選定資料ですね。英語の17、18ページの学びの工夫の項目に、それぞれの各社のデジタル教科書についての記述もございますので、この辺も見ていただいたらと思うんですが、調査員からの報告では、「どの教科書もデジタル教科書も非常に工夫されており、使いやすい」という意見と「見本版での提供で10ページに満たないような情報ですので、そこで考慮するよりも紙の教科書を考慮するほうがいだろう」という意見も併せていただいておりますので御報告させていただきます。

以上でございます。

○委員長 はい、ありがとうございます。

それでは、英語も6社ありますので、15分ほど見ていただいた上で、また御意見等を随時いただきたいと思っておりますのでお願いします。これ、サンプルはここでは見られへんねんね。

○事務局 一応、今URLはあるので、もしよろしければ何台かつないでみまじょうか。

○委員長 それじゃあ、必要なときに声かけたら分かるという。

○事務局 はい、つなぐことができますので、デジタル教科書のほうも見て。

○委員 それを見ないと駄目なんじゃないんですかね。教科書選定委員でそれを見なくて、デジタルを見なくてそれを選べって。見なくちゃいけない。例えば、サンプルとしてでも。

○事務局 分かりました。

○委員長 では、デジタル教科書の準備ができ次第見ていただくということで、10分ほど見ていただいて、ご意見いただければと思います。

(教科書閲覧)

○委員長 それでは、デジタル教科書のほうは時間かかってますので、教科書も今紙媒体のほうを見ていただいていると思うので、御意見もいただきながら進めさせていただけたらなと思っておりますのでお願いいたします。何かお気づきの点あれば随時お願いいたします。

さっきの府の通知は、デジタル教科書を含めて検討することができるという表現でしたっけ。

○事務局　　そういうことです。「英語の学習者用デジタル教科書を紙の教科書と併せて提供する予定であり、採択については英語のデジタル教科書を調査し、考慮の1事項とすること」

○委員長　　考慮の1事項として。で、今各社はサンプルのページしかまだ作ってないということですね。

○事務局　　そうです。はい。

○委員長　　分かりました。はい。

　　そうしたら、御意見ございましたら随時お願いします。

　　はい、お願いします。

○委員　　東京書籍ですが、単元というかユニットごとに、この右にタブみたいな図柄になっていて4段構成になっています。それぞれが。始めて、自分でやるところとか、コミュニケーションするページとか、ちょっと深めるページとかいう。そういう構成に工夫があるし子供も分かりやすいなと思います。

○委員長　　なるほど。ありがとうございました。

○委員　　特にオーバーザホライズンという一番最後の深めるページぐらいのところは、ちょっと教科横断的な視点もあったりして面白いです。

○委員長　　はい、なるほど。はい、ありがとうございます。

　　はい、お願いします。

○委員　　光村ですが、巻末というか最後のほうに、絵の物語が英語で書いてるのがあって、すごく考えさせられるし、日本語であってもすごい考えさせられる内容で、英語で書いてあることで、その英語の意味とかも何かしっくりと伝わりやすく面白いなど。最後のほうには、英語のお勧めの絵本とか、これも学校図書館に日頃置いてあるようなもの見たりとか。

○委員長　　それ何ページですか。

○委員　　ごめんなさい。6年生のほうの96、7、8にあって、すごく、はい。子供たちもこういうところから英語に慣れ親しむというところがすごく分かりやすいなと思います。

○委員長　　はい、他にいかがでしょうか。

　　はい、お願いします。

○副委員長　　東京書籍です。まず、5年生、6年生ずっと学習を進めていくキャラクターや登場人物がソフィアさんとゴトウさんとタマさんとルーナスさんとやり取りをしていて学習の流れがつかみやすかったり、あと表現活動のところにICTを利用して5年生のところで72ページなんかは、ほかの国の人たちとやり取りしたり、92ページのところではタブレットを使って自分の思いを伝えたりと、ICTを使って表現するような場面が幾つか出てました。

○委員長　　はい、ありがとうございます。

○委員　　ちなみに巻末については、かるたみたいな、これはこんなんどうやって使うんですか。これ。かるたみたいなん、皆結構、これどうやって使うん、これ。型紙なってこんなんとかいっぱいほかのところもあるけど。これはどうするんやろう。

○副委員長　　子供同士でこのカードをやり取り、交換したりとか。結構席から立って活動してる場面で使ってる場所があります。

○委員　　これはあれですか。こういうのをつけなさいっていうのがあるんですかね。このかるたみたいなつけなさいで、どこにもついてるんですけど。

○事務局　　活動でとかですかね。使うからということ。

○委員　　つけなくちゃいけないものなんですか。じゃなくて。

○委員長　　いや、それはないですね。つけないといけないというのは。

○事務局　　ないです、ないです。

○委員 でも英語教員とかが結構手作りでそういうの作ったりとかもしてるの多いです。だからこういう教科書にこういうのがあれば、これがすごく活用しやすいなというのはありますね。

○委員 なるほど。切り離しもできてカードみたいにして。

○委員 前、授業見学行ったときとか、もう本当に手作りで誕生日ケーキのカード作って、それに自分の月の誕生日発表し合ったりして、それをできたらそのカードを渡して、じゃあ何枚集まったか、それだけ交流できたというのが見える化するような形が。

○委員 楽しそうですね。なるほど。そういうことか。

○委員長 はい、お願いします。

○委員 東京書籍さんのニューホライズンについてです。やっぱり3年生から外国語活動始めたといっても、まだまだアルファベットを書くのも子供ら難しい部分もございますので、やはり本のサイズ大きいほうが子供らが記入するときに書きやすいのかなというのが一つと、あともう1点は、単語の練習ではなくて回答ですよ。答えとか、あなたの思ってることとかが学習の記録としてどんどんどんどん書き込めるので、また家帰って復習するときとか、予習でなかなか難しいのかなとは思いますが、そういうときにもちょっと見やすいのかなというふうに思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。教科書自体が何かこう学習の記録みたいななになっているんですね。

○委員 そうですね。

○委員長 なっていくというね。はい。

はい、お願いします。

○委員 光村図書ですが、前のほうのページにCAN-DOリストが載っていて、しかも自己評価ができる欄が設けられているので、これ活用できるなと思います。

○委員長 はい、ありがとうございます。CAN-DOリストは何ページでしたっけ。

○委員 光村だと5年生やったら8ページです。

○委員長 光村の。8ページ、はいはい。はい、すみません。

はい、お願いします。

○委員 教育出版さんの6年生のすみません。30ページぐらい見てるとどっかでよく見た人気者が出てるんですけど、とかこういうのもあってビジュアルとあって。あと、真ん中の59、57とか見開きの地図ついてるんですけども、僕、前回も言ったかもしれないですけど、やっぱり多国籍の子がいっぱい来てる中で、こういうのを見ると何かうれしい、ほっとするというお話を聞いているので、こういうのもいいし、鬼滅の刃が子供たちにはいいかなとあるし。今これQRで引っ張ったら英語で鬼滅の刃いうて言うてました。だから、そういうようなことも何か興味を引く感じなのかなというので、ビジュアル的にもいいかなと思いました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○委員 開隆堂ですが、二つありまして、一つが、6年生の110ページなんかの世界で活躍している人の中で、外国の方で日本の文化で活躍している人であったりとか、日本の方が外国で活躍しているという。いわゆる世界と日本のつながりというのがこれでよく分かるのがすごくいいなというのと、CAN-DOリストのほうも128ページにあるんですが、チェック式になっていて自分がどうやったのかって振り返るようになってるのがすごくいいなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

○委員 その開隆堂さん、キーボードついてますね。

○委員 キーボードね、ありますね。

○委員 これもへボン式とかローマ字と一緒に。先ほどまたがって教えてると言っていたので。これもその一環なのかなと。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

○委員 ほかのところも載っていますが、キーボード載ってるのは開隆堂さん。

○委員長 ちょっと開隆堂と光村の2社が今並んでるかなと思うんですけど。この2社で、ほかに何か御意見お持ちの方おられませんか。開隆堂と光村。

今の時点で、まず、東京書籍はすごく今意見いただいているので「最もふさわしい」というところに入るかなと思ってますが、あと、開隆堂か光村のどちらか1社を「最も」のほうには挙げておいたらどうかなと思ってんですが。

○委員 全体的に大きさが、これがまたちょうどよかって、小学生なら小さいときには小ちゃいほうがいいかなという。光村さんのほうが。

○委員長 小さいですね。サイズが扱いやすいですね。

○委員 扱いやすいんじゃないかなと。

○委員長 はい。

はい、お願いします。

○委員 光村ですが、4年生の66ページに日本語と英語の違いというページがあって、言葉を英語を単にドリル的に練習するだけじゃなくて、言語として考えさせる、そういう機会になっていいかなと思います。

○委員長 なるほど。はい。ありがとうございます。

○委員 光村で。

○委員長 光村、はい。

○委員 このピクチャーディクショナリーというのがすごくいいなと思いました。その学年で学んだことというのが辞書みたいになっているので、見てもうたら分かるようにすごく見やすいなと思います。

○委員長 はい、はい、はい。あれ何やったかなと思うときに、そこで見れるということですね。

はい、ありがとうございます。

そうしたら、デジタル教科書のほうも見ていただいておりますが、今お持ちの御意見はいただけましたでしょうか。よろしいでしょうか。

そうしたら、分類の確認ですが、「最もふさわしい」に東京書籍と光村図書。「よりふさわしい」に開隆堂と教育出版。「ふさわしいもの」に三省堂と啓林館。2社ずつで整理できるかなと思ってますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

はい。そうしたら、ありがとうございました。

それでは、英語のほう、こちらで終わらせていただきます。

○委員長 そうしたら、最後、道徳のまず説明をお願いします。

道徳

○事務局 では、まず、東京書籍からでございます。「全学年教材文の最後に、考えるための道筋が書かれており、主体的な学び、対話的な学び、深い学びの実現に向けた工夫がある」というような意見が出ております。

次が、教育出版です。「役割・演技を取り入れるなど、体験的な学習ができるように工夫されている」というような意見が出ておりました。

続いて、光村図書です。「何だろう、何だろう、ミナさんは、イラストで学年に合った問いを載せて、

自学自習を促す工夫がされている」や、「話し合うためのコツも書かれていて、導入に入りやすい」などの意見が出ております。

続いて、日本文教出版ですけれども、「教材ごとに使える視点が初めに書かれており、主体的に学ぶ工夫がされている」という意見が出ております。

続いて、光文書院ですけれども、「考え方を整理するための絵や図の使い方が示されている」というような意見が出ております。

最後に、学研教育みらいですけれども、「深めようで学習を進める上で、考える手だて、発問の流れが書かれていて、主体的に考える工夫がされている」というような意見が出ておりました。

ちなみに、府の選定資料には、道徳16ページから18ページに客観データのほうが記載されておりますので併せて御覧ください。

以上でございます。

○委員長 はい。ありがとうございます。

それでは、説明終わりましたので、道徳についても15分ほどお時間取らせていただきますので、教科書のほう御覧いただきますようお願いいたします。

(教科書閲覧)

○委員長 そうしたら、教科書を見ていただくのを続けながら、進めたいと思うんですが。いかがでしょうか。

はい、お願いします。

○委員 日文さんのやつですけども、もう見てのとおり、一教科書会社さんだけタイトルが「いきる力」になって、「道徳」ではないというのが、中に思いが伝わってるんだな、思いがあるんだなという。見た目ですけども。

○委員長 なるほど。はい。特徴としてですね。

○委員 特徴として、はい。

○委員長 ありがとうございます。はい。

はい、お願いします。

○委員 光村図書についてです。読み物以外の実際生活に即した内容であったりとか、話し合いしやすいような内容を多く取り扱ってますので、読み物があまり得意じゃない子とかもどんだんどんどん積極的に道徳の時間を参加していけるんじゃないかなと感じました。

○委員長 なるほど。はい。ありがとうございます。読み物教科以外も充実してるというところですかね。

○委員 はい。

○委員長 はい。はい、お願いします。

○副委員長 同じく光村図書ですけれども、題名の右下にある初めの吹き出しが自分のことに近づけた疑問から始まっていて考えやすい導入ができるのと、そこから学習の進め方として物語の後に、考えよう、話し合おう、そしてつなげようという流れが具体的に示されているので、授業で活用しやすいなと思いました。

○委員長 なるほど。自分事として入って行ってということですね。

○副委員長 はい。

○委員 その意見に付け加えてなんですけど、絶対全学年で話し合おうって出てくるので、年間通して全学年で話し合いにこだわってみたいなことってやればやる意義はありそうだと思います。

○委員長 なるほど、分かりました。

はい。

○委員 光文なんですけども、自分のことをほかの人のことというのを、これ見開きの6年生、3ページなんですけど、ほかのところも結構こういうなやつ書かれてあるんですけども、すごくイメージしやすいなど。中心に自分のことがあって、次に周り、ほかの人、集団、社会。で、大きな命や自然、大きな力と。ほかのところと違ってイメージがすごく湧きやすいものかなと。捉えやすいかなと思いました。

○委員長 はい、ありがとうございます。

今、光文でしたね。

○委員 光文です。はい。

○委員長 他にいかがでしょうか。

はい。

○委員 東京書籍になります。全教材の最後に、考えるための道筋ということで大体二つ問いがついています。

まず、教材に関する質問、それから自分事として捉えたときにどうかという質問の、この2点に絞られていて、どの教材もそうなんです。そのシンプルな2点に絞っているというところがとてもいいなと思いました。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

杉本さん、これ何か子供が興味を持ちそうとか、何かその辺りの。

○委員 この光文さんの最後の「学びのあしあと」、いつ、何ページやったとか、あとこのときの子供の気持ちを顔のあれで表すのもすごい面白いなと思って。

○委員長 なるほど、なるほど。

○委員 そうしたら、そのときに分かったとか、もっと考えたいとか、あのときはこんなこと考えたかっかな、もっととか。そういうのを振り返れるのかなと思って。

○委員長 なるほど、なるほど。

○委員 これはすごい、だから面白いなと思って、今見てて。

○委員長 何かこう自分のそのときの考え方とか何かそういうのを振り返りながら。

○委員 そう、とかが、後々振り返ったときに、このときはこんなんやったけど今やったらもうちょっと違う考え方ができるのかなとか。

○委員長 なるほど、なるほど。はい。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 日本文教出版さんです。ありなんかなしなんかちょっと分からないですけど、ここ道徳ノートというのが別冊でついておりまして、先生方によって教え方様々だと思うんですが、記録として残るものについては統一されたものがありますので、少なくとも採択されてから数年間は子供たち同じパターンで毎年お勉強を進めることができるので、どの子にとっても学習が進みやすいのかなと感じました。

○委員長 ありがとうございます。今、日文でしたっけ。

○委員 はい。日本文教出版さんです。

○委員長 はい。ありがとうございます。

はい、お願いします。

○委員 学研です。教材の題名の下にそのお話の中のキーセンテンスみたいなのが書かれていて、多分この話の一番の盛り上がりの部分なのかなと。読解が苦手な子にも、その苦手さに邪魔されずにどんどん学べそうな気がします。

○委員長 なるほど、はい。ありがとうございます。

ほかいかがでしょうか。

今、お聞きしますと、「最もふさわしい」ところに光村が今いいところたくさんいただいたかなと思っておりますが、あと東京書籍と日本文教出版と光文書院。これがちょっと横並びかなと思うんです。その東京書籍、日本文教出版、光文書院。この3社の中で何かこうそれぞれのよさ等、もし御意見あれば。

○委員 光文の、これも読解を助ける手だてですけど、最初に注目したい登場人物がイラストつきで載ってるので、この人物に注目して読んだらいいねんなどというのがよく分かります。

○委員長 はい、ありがとうございます。

他にいかがでしょうか。

○委員 これは東京書籍さん。これちょっとごめんなさい。全てかどうか分からないですけど、これQR読み込むと朗読とスライドというて、同じコンテンツを読み上げるのにいろんなパターンがあるんですよ。これ多分、目の見えない子供、耳の悪い子供たちでもこれが道徳で学べるようにしている工夫があるんじゃないかなという気はします。

○委員長 なるほど。はい、ありがとうございます。

○委員 引き続き、すみません。光文社さん、いいと言われたように、6年生の最後の最後に相田みつをを持ってきてるんですよ。これは渋いっすよね。この1冊、この1文で終わっちゃいますよね。すばらしいですね。186ページにね。

○委員長 はい、ありがとうございます。

よろしいでしょうか。今お持ちの御意見はいただけてますでしょうか。はい。

そうしたら、今いただいた御意見で分類させていただきますと、まず、「最もふさわしい」に光村図書、そして光文書院。続いて、「よりふさわしいもの」に東京書籍、日本文教出版、そして学研教育みらいの3社。「ふさわしいもの」に教育出版というふうに整理を今させていただきましたが、特によろしいでしょうか。

(異議なしという声あり)

○委員長 そうしたら、今の分類で整理をさせていただきます。

では、以上で、それでは、今最後の道徳のほうで、これで選定作業を終えることができました。どうもありがとうございました。

そうしたら、間違いがあったらちょっと大変なので、今日させていただいた生活から、ちょっと分類について再度確認させていただきます。

まず、生活の「最もふさわしい」が東京書籍、啓林館の2社。そして、「よりふさわしい」に光村図書の1社。あと3社が「ふさわしい」ものと。

続いて、音楽は、こちらは2社ともに「最もふさわしい」。

図工について、こちら2社ともに「最もふさわしい」。

家庭科も2社ともに「最もふさわしい」。

続いて、保健については、「最もふさわしい」に大日本図書と学研教育みらい。「よりふさわしい」に東京書籍と光文書院。あと2社が「ふさわしい」、この3分類。

英語ですが、「最もふさわしい」に東京書籍と光村図書。そして、「よりふさわしい」に開隆堂と教育出版。そして、あと2社が「ふさわしい」。

最後、道徳ですが、「最もふさわしい」に光村図書と光文書院。「よりふさわしい」が3社で東京書籍、日本文教出版、学研教育みらい。そして、「ふさわしい」に教育出版の1社。

それでは、ありがとうございました。

それでは、閉会に当たりまして、副委員長より御挨拶をいただきます。

○副委員長 失礼します。

2日間にわたりまして、熱心に選定作業を行っていただきまして心よりお礼申し上げます。

最終的には、教育委員会で採択が行われるところですが、我々としましても公正かつ適正な選定作業を行うことができたと自負しております。これも委員の皆様のお力添えのおかげです。

本日は本当にありがとうございました。お疲れさまでした。

閉会 午後5時00分